

はじめて出会う世界の絵本

ちいさなタグボートのバラード

ヨシフ・プロツキー文
イーゴリ・オレイニコフ絵／沼野恭子訳
東京外国語大学出版会 1,900円+税

ノーベル賞詩人ヨシフ・プロツキーが若いころ（有益な仕事をしていないという理由で逮捕され、強制労働させられた後、亡命する前に）、子どものために書いた詩が、国際アンデルセン賞画家イーゴリ・オレイニコフの手で、絵本としてよみがえりました。湾から出ることもない、ちいさなタグボートのせつなさが胸にしみします。

赤塚きょう子（あかつか きょうこ）
児童文学翻訳家

美術館って、おもしろい！

モラヴィア美術館編
阿部賢一・須藤輝彦訳
河出書房新社 3,200円+税

美術館の歴史、展覧会の仕組み、裏方さんの仕事など、ふだん見れない美術館の姿が、ユーモアたっぷりの絵とともに紹介されています。思わず笑みが溢れる、遊び心に溢れる一冊！

阿部賢一（あべ けんいち）
東京大学准教授+翻訳する人

ゴードン・パークス

キャロル・ボストン・ウェザーフォード文
ジェイミー・クリストフ絵／越前敏弥訳
光村教育図書 1,400円+税

アメリカの主要誌で活躍した最初の黒人フォトグラファーの伝記。どんな差別を受け、それをどう乗り越えてきたかが、静かに力強く描かれています。親子でいっしょに繰り返し読んでもらいたい絵本。

越前敏弥（えちぜん としや）
文芸翻訳家

アルマの名前がながいわけ

フアナ・マルティネス-ニール文・絵
宇野和美訳
ゴブリン書房 1,500円+税

アルマの名前をぜーんぶ書くと、アルマ・ソフィア・エスペランサ・ホセ・プーラ・カンデラ。ながすぎて、書くのがたいへん。だけどね、こんなに長いには、わけがあるんです。聞いてみませんか？ ペルー生まれ、アメリカ合衆国在住の作者が描く、名前にこめられた家族のものがたり。

宇野和美（うの かずみ）
翻訳者

よあけ

ユリー・シュルヴィッツ作・画
瀬田貞二訳
福音館書店 1,200円+税

子どもが生まれてから、何百冊もの絵本を読み聞かせてきました。外れがないのが、『指輪物語』の訳者として知られる瀬田貞二の手がけた絵本の数々です。本書『よあけ』は、柳宗元の「漁翁」を下敷きにしつつも、漢詩の淡い情景は鮮やかでインパクト強く描き直されています。子どもには初めて触れる叙景詩となるでしょう。

岡和田晃（おかわだ あきら）
翻訳家

「ナイトランド・クォーター」編集長

海へのあさ

ロバート・マックロスキー文・絵
石井桃子訳
岩波書店 1,700円+税

はじめて歯がぬけたときの、こわくて、気になって、わくわくした感じは、だれもがみんな知っています。自然にあふれ、ちょっと不便な島にすむサリーにも、その日がやってきました。それを鳥たちに、島の人たちにつたえたくてたまらないサリーのうれしさが、絵と文でありますことなく表現されています。

おおつかのりこ
翻訳者

ジャックと豆の木

ジョン・シェリー再話・絵
おびかゆうこ訳 福音館書店
1,400円+税

世代を超えて愛されるイギリスの昔話。ジャックと巨人の追いかけっことは何度読んでもハラハラドキドキ！ 巨人は恐ろしいけれど、大事なものを奪われた上に退治されてしまって、ちょっとかわいそう？ ジョン・シェリーの緻密で躍動感あふれる絵と再話は、子どもたちの心に海外文学愛の芽をしっかりと植え付けることでしょう。

おびかゆうこ
児童文学翻訳家

うるさく、しずかに、ひそひそと

ロマナ・ロマニーシン、アンドリー・レシヴ著
広松由希子訳
河出書房新社 2,000円+税

この世にあるれるさまざまな「音」というものを、文字と絵を使っているんな角度から解き明かす試み。読んで賢くなれるし、何より色とデザインのセンスが最高で見飽きません。

岸本佐知子（きしもと さちこ）
翻訳家

ちいさなあなたがねむる夜

ジーン・E・ベンジウォル文
イザベル・アルスノー絵／河野万里子訳
西村書店 1,400円+税

北の国のしずかな夜——子守歌のように語られる、神秘的な雪国の夜と、そこに息づく動物たちの命の輝き。美しい絵とイメージ豊かな言葉で、ねむる子を見守る母の愛が、深く胸に伝わってきます。

河野万里子（この まりこ）
翻訳家・上智大学非常勤講師

スモンスモン

ソーニャ・ダノウスキ文・絵
新本史斉訳
岩波書店 1,800円+税

ダノウスキのファンタジーが炸裂したこの絵本には、これまで体験したことのない魅力が詰まっていました。目ちからだけは妙にリアルなスモンスモンの、オノマトペのようにリズムカルな宇宙語(?)と、ダークな色彩の幻想画が織りなす唯一無二の世界。それでいて、最後の場面の至福感に無性に懐かしさを覚えるのです。

関口英子（せきぐち えいこ）
翻訳家

ひとりぼっちのモンスター

アンナ・ケンブ文／サラ・オギルヴィー絵
たなかあきこ訳 フレーベル館 1,400円+税

これはおじいちゃんモンスターとちびっこ騎士のむかしむかしの物語。ふたりは出会って、大切なことに気づきます。モンスターだって、うれしかったり悲しかったり、人と同じように感じる。そしてノリノリの楽しいロックは、みんなの心を結ぶこと！ ピンクのギターと紫のモンスターが目印の、ラブ&ピースな絵本です！

田中亜希子（たなか あきこ）
翻訳者

世界のまんなかの島 わたしのオラーニ

クレア・A・ニヴォラ文・絵／伊東晶子訳
きじとら出版 1,800円+税

本をひらくと、地中海の明るい光がふりそそぎます。まだ行ったことのないイタリア、サルディーニヤ島。でも、この絵本のページをめくっていくと、知らないはずのオラーニ村のくらしが、まるで自分のことのように慕わしく感じられてくるのです。

ないとうふみこ
翻訳者

アンジュール ある犬の物語

ガブリエル・バンサン作 BL出版
1,300円+税

文字のない絵本です。絵が語りかけてくるので、文字はいらないのです。犬と目が合ってしまったら、そのまま一緒に歩きだしてください。

永田千奈（ながた ちな）
翻訳者

ひみつのビクビク

フランチェスカ・サンナ文・絵／なかがわちひろ訳
廣済堂あかつき 1,600円+税

新しいことにであうと、心と身体がこわばるよね。それは、ひみつの友だちビクビクからの「気をつけて」サイン。

ビクビクがいれば、本当に怖い目にはあわないし、少しずつ強くなれる。

でも「この国」にきたら、ビクビクは、ものすごく大きくなってしまった…。

身近な共感から、国境を超えて視野を広げられる可愛い絵本です。

なかがわちひろ
児童書・絵本の翻訳者

せんそうがやってきた日

ニコラ・デイビス文 レベッカ・コップ絵
長友恵子訳 鈴木出版 1,500円+税

紛争地の難民の半数以上は小さな子どもというのは、案外知られていない事実です。子どもの難民の目を通して現状を訴えている絵本です。この絵本に目を通してくださった方が、難民問題に少しでも関心をよせてくださいましたら、訳者冥利につきます。

長友恵子（ながとも けいこ）
紙芝居文化の会運営委員、JBBY、
やまねこ翻訳クラブ会委員

おかあさんとわるいキツネ

イチンノロブ・ガンバートル文
バーサンスレン・ポロルマー絵
津田紀子訳
福音館書店 1,400円+税

モンゴルの北の森でトナカイの群れを飼う若いお母さん。乳をしぼるために家を出ると、赤ちゃんを狙って悪いキツネが現れます。お母さんは必死に赤ちゃんを守りますが.....？ モンゴルの美しく雄大な自然を舞台に、手に汗にぎる物語がくり広げられます。お母さんの愛が胸を打つ一冊。

布施由紀子（ふせ ゆきこ）
出版翻訳家

トヤのひっこし

イチンノロブ・ガンバートル文
バーサンスレン・ポロルマー絵／津田紀子訳
福音館書店 1,500円+税

ひっこしといっても、このおはなしの家族は、それまでの家からべつの家へひっこすわけではありません。すんでいる家そのものを持ちこんで、あたらしい土地をめざします。さばくをこえ、山をこえていく地平線のむこうに、なにがまっているでしょう。ひろびろとした草原をわたる、風のおいがしてくるような絵本です。

古市真由美（ふるいち まゆみ）
フィンランド文学翻訳者

アラジンと魔法のランプ

アンドルー・ラング 再話
エロール・ル・カイン 絵
中川 千尋訳 ほるぷ出版 1,800円+税

千夜一夜物語は若いうちに一度は全部読んでもらいたい人類の想像力の宝庫ですが、幼いうちにその一端に触れることは理想的な出会いになるでしょう。すでにアニメや実写映画でもさまざまに表現されていますが、この絵本はじつに魅力的なビジュアルで子供たちの心をつかんでくれると思います。

増田まもる（ますだ まもる）
英米文学翻訳家

ちいさいおうち

バージニア・リー・バートン文・絵／石井桃子訳
岩波書店 1,700円+税

大人が読んでも楽しい絵本は数多くありますが、この本は美しい絵を眺めているだけでも心が温かくなります。絵本を手にとってみようかなという大人にお勧めです。

矢沢聖子（やざわせいこ）
英米文学翻訳家

オオカミと石のスープ

アナイス・ヴォージュラード作／平岡 敦訳
徳間書店 1,700円+税

声に出して子供とちょっとドキドキしながら夜いっしょに読みたい本。ある夜、石を背負ったオオカミが動物たちの村にきて、雌鶏の家で暖炉で石のスープを作ります。動物たちと私たちの心配と期待、サスペンスとアンチクライマックス...今こたばで言えなくてもその感覚を子供たちに覚えていてほしいと思う一冊です。

村松真理子（むらまつ まりこ）
大学教員（イタリア文学研究）

〔グラフィック版〕アンネの日記

アンネ・フランク著／アリ・フォルマン編
デイビッド・ポロンスキー絵
深町真理子訳
あすなろ書房 2,000円+税

アンネの隠れ家での食事は？ お風呂やトイレは？ そんなこまかいことも、この本なら絵を通してよくわかります。日常の生活がいきいきと伝わってくるだけに、突然の幕切れがいつそう胸にせまります。原作に忠実でありながら、画家の想像力の豊かさも感じられる、アンネ・フランク財団もおすすめの一冊です。

宮坂宏美（みやさか ひろみ）
翻訳者

ジュリアンはマーメイド

ジェシカ・ラブ文・絵／横山和江訳
サウザンブックス社 1,800円+税

昨年行ったクラウドファンディングで刊行された作品です。ジュリアンがよりたくさんのお子さんの手に届くようにと願い、推薦させていただきます。

横山和江（よこやま かずえ）
子どもの本の翻訳者

チェンジ・ザ・ワールド！

—世界を変えた14人の女性たち—

スーザン・フッド文／13人のすばらしき女性画家絵
渋谷 弘子 訳 フレーベル館 1,600円+税

小さいころ、ずっとむかしに生きた人の はなしをよむのが大スキでした。なにかを なしとげた 男の人の はなしが多かったので、女の人の はなしも もっとよみたいな、とおもったのを おぼえています。ここには、そんな女の 人たちが14人も しょうかいされています。いろいろな生き方があって、おもしろいよ。

吉澤康子（よしざわ やすこ）
文芸翻訳者

絵本を選んでくれたみなさん

赤塚きょう子（あかつか きょうこ）

やまねこ翻訳クラブ会員。主な訳書『グレタ・トゥーンベリ』（ヴィヴィアナ・マツツア、金の星社）、『世界食べものマップ』（フェーベ・シッラーニ&ジュリア・マレルバ、辻調グループ辻静雄料理教育研究所監修、中島知子共訳、河出書房新社）、『イクバルと仲間たち 児童労働にたちむかった人々』（スーザン・クークリン、長野徹共訳、小峰書店）。やまねこ翻訳クラブのメールマガジン「月刊児童文学翻訳」で「お菓子の旅」を担当中（掲載は不定期）。

<http://www.yamaneko.org/mgzn/corner/cake.htm>

阿部賢一（あべ けんいち）

訳書に『わたしは英国王に給仕した』（ポファミル・フラバル、河出書房新社）、『エウロペアナニ〇世紀史概説』（バトリク・オウジェドニーク、共訳、白水社、第一回日本翻訳大賞受賞）、『命の水 チェコの民話集』（カレル・ヤロミール・エルベン、西村書店）、『湖』（ビアンカ・ペロヴァー、河出書房新社）、『力なき者たちの力』（ヴァーツラフ・ハヴェル、人文書院）他。

宇野和美（うの かずみ）

『わたしはフリーダ・カーロ』（マリア・ヘッセ、花伝社）、「あしたのための本」シリーズ『民主主義は誰のもの？』『独裁政治とは？』『社会格差はどこから？』『女と男のちがって？』（いずれもプランテルグループ、あかね書房）、『しあわせなときの地図』（フラン・ヌニョ、ほるぷ出版）、『アルマの名前がながいわけ』（フアナ・マルティネス・ニール、ゴブリン書房）、『マルコとパパ』（グスティ、偕成社）など、スペイン語圏のユニークな作品を多数翻訳。開店から14年になる、スペイン語の子どもの本のネット書店〈ミランフ洋書店〉も営む。

越前敏弥（えちぜん としや）

文芸翻訳者。訳書『オリジン』『おやすみの歌が消えて』『世界文学大図鑑』『解錠師』『Yの悲劇』など。著書『翻訳百景』『文芸翻訳教室』『この英語、訳せない！』『日本人なら必ず誤訳する英文・決定版』など。「はじめての海外文学」「読書探偵作文コンクール」運営メンバー。全国翻訳ミステリー読書会フードファイター。

おおつかのりこ

子どもと子どもの本がすき。英語の本を翻訳したり、日本語の本を書いたりしています。おはなし会やボーイスカウトなど、子どものいるところに出没します。訳書は『モルモットオルガの物語』『オルガとボリスとなかまたち』（いずれもマイケル・ボンド作、いたやさとし絵、PHP研究所）、『死について考える本』（メリー＝エレン・ウィルコックス作、あかね書房）など、著書は『元号ってなんだろう 大化から令和まで』（宮瀧交二監修、藤原ヒロコ絵、岩崎書店）など。

岡和田晃（おかわだ あきら）

主に英語圏の幻想文学を翻訳紹介する雑誌「ナイトランド・クォーター」の編集長をしており、自身、同誌でアンジェラ・スラッターやE・ホフマン・ブライス、ポール・ヘインズ、ウィリアム・フォークナー、アーネスト・ヘミングウェイ等の訳を手がけてきました。著書に『「世界内戦」とわずかな希望』（日本SF評論賞優秀賞受賞作を含む）、『反ヘイト・反新自由主義の批評精神』（北海道新聞文学賞佳作の改題）、『掠れた曙光』（茨城文学賞詩部門）など多数。

おびかゆうこ

国際基督教大学(ICU)語学科卒業。出版社勤務の後、ドイツ留学を経て、子どもの本の翻訳に携わる。訳書に『嵐をしずめたネコの歌』（徳間書店）、『かわいいゴキブリのおんなの子メイベルのぼうけん』（福音館書店）、『ルール！』（主婦の友社）、『おばあちゃん、ぼくにできることある？』（偕成社）、『くまくん、じゅんびはオーケーかい？』（マイクロマガジン社）など。

河野万里子（こうの まりこ）

主な訳書に『星の王子さま』（サン＝テグジュペリ 新潮文庫）、『カモメに飛ぶことを教えた猫』（セブルベダ 白水社）など。最近の訳書に『シェリ』（コレット、光文社古典新訳文庫）、『神さまの貨物』（ジャン＝クロード・グランパール ポプラ社 10月刊 予定）

岸本佐知子（きしもと さちこ）

訳書に『掃除婦のための手引き書』（ルシア・ベルリン、講談社）、『話の終わり』（リディア・デイヴィス、作品社）、『最初の悪い男』（ミランダ・ジュライ、新潮社）、『内なる町から来た話』（ショーン・タン、河出書房新社）ほか。編訳書に『楽しい夜』『恋愛小説集』（いずれも講談社）ほか、著書に『なんらかの事情』（筑摩書房）ほか。

関口英子（せきぐち えいこ）

イタリア語の翻訳をしています。絵本からノンフィクションまでジャンルはいろいろ。映画字幕も書きます。訳書は、イタロ・カルヴィーノの初期短篇集『最後に鴉がやってくる』（国書刊行会）、アルプスを舞台に男の友情を描いた『帰れない山』（パオロ・コネッティ、新潮社）、ずっとぼけたユーモアで読む者の心をつかむ『猫とともに去りぬ』（ロダリー、光文社古典新訳文庫）などなど、気づけば70冊を超えました。イタリアでだからこそ生まれる物語をお届けできればと、日々研鑽を積んでいます。

田中亜希子（たなか あきこ）

訳書に絵本『コッケモーモー！』（ジュリエット・ダラス=コンテ、徳間書店）、児童読み物「ひみつの妖精ハウス」シリーズ（ケリー・マケイン、ポプラ社）、YA『炎に恋した少女』（ジェニー・ヴァレンタイン、小学館）、『目覚めの森の美女 森と水の14の物語』（ディアドラ・サリヴァン、東京創元社）など。読み聞かせの活動も行っている。

ないとうふみこ

英米文学翻訳家。訳書に『きみはどこからやってきた？』（フィリップ・パンティング、KADOKAWA）、『ハヤクさん一家とかしこいねこ』（マイケル・ローゼン作 トニー・ロス絵、徳間書店）、『ゴースト』（ジェイソン・レノルズ、小峰書店）、『貸出禁止の本をすくえ！』（アラン・グラッツ、ほるぷ出版）などがある。やまねこ翻訳クラブ会員。読書探偵作文コンクール事務局メンバー。

なかがわちひろ

訳書は児童書、とくに近年は絵本が多く『ふしぎをのせたアリエル号』（リチャード・ケネディ、徳間書店）、『ちいさなあなたへ』『たくさんのドア』（いずれもアリスン・マギー、主婦の友社）など。創作絵本、創作童話もかいています。『のはらひめ』（徳間書店）、『天使のかいかた』（理論社）、『かりんちゃんと十五人のおひなさま』『まほろ姫とブッキラ山の大テング』（いずれも偕成社）など。

永田千奈（ながた ちな）

フランス語翻訳者 訳書に『海に住む少女』（シュベルヴィエル、光文社古典新訳文庫）。『椿姫』（デュマ・フィス、光文社古典新訳文庫）、『凧』（ロマン・ガリ共和国）など

長友恵子（ながとも けいこ）

訳書は絵本から児童読み物、YAまで。YA「ぼくだけのぶちまけ日記（スタンプブックス）」（スーザン・ニールセン著、岩波書店）と絵本の『せんそうがやってきた日』（ニコラ・デイビス作、レベッカ・コップ絵、すずき出版）の2冊が最新刊。他の訳書に『生命の炎は高く』（マーク・シュライバー著、偕成社）『中世の城日誌』（リチャード・プラット作、クリス・リデル絵、岩波書店、産経J R賞受賞）、『ピーターと象と魔術師』（ケイト・ディカミロ著、岩波書店）、『おうちにいれちゃだめ！』（ケヴィン・ルイス作、デイヴッド・エルコリーニ絵、フレーベル館）『グレース・ホッパー、プログラミングの女王』（ローリー・ウォールマーク作、ケイティ・ウー絵、岩崎書店）など。紙芝居をライフワークと決め、紙芝居文化の会で勉強を続けています。

布施由紀子（ふせ ゆきこ）

訳書に、『壁の向こうの住人たち アメリカの右派を覆う怒りと嘆き』（A・R・ホックシールド、岩波書店）、『ブッチャーズ・クロッシング』（ジョン・ウィリアムズ、作品社）、『1493 世界を変えた大陸間の「交換」』（チャールズ・C・マン、紀伊國屋書店）、『天国の扉をたたくとき 穏やかな最期のためにわたしたちができること』（ケイティ・バトラー、亜紀書房）など。



古市真由美（ふるいち まゆみ）

訳書に『四人の交差点』（新潮クレスト・ブックス）、『処刑の丘』（東京創元社）、『殺人者の顔をした男』（集英社）、『ふしぎの花園シスターランド』（西村書店）、『暗やみの中のきらめき 点字をつかったルイ・ブライユ』（汐文社）など。共著に『多文化に出会うブックガイド』（読書工房）など。モンゴルの草原に小さいころからあこがれて、一度だけ旅行したことがあります。そのときの感動が、絵本『トヤのひっこし』を読むとよみがえります。

増田まもる（ますだ まもる）

宮城県生まれ。早稲田大学第一文学部文芸科中退。季刊NWSF誌に掲載したラングドン・ジョーンズの「レンズの眼」で翻訳家デビュー。主な訳書は『楽幻会社』『楽園への疾走』『ミレニアム・ピープル』（いずれも）・G・バラード、東京創元社）、『パラダイス・モーター』『隠し部屋を査察して』（いずれもエリック・マコーマック、東京創元社）、『デッドガールズ』『デッドボーイズ』（リチャード・コールドー、トレヴィル）、『フィーヴァードリーム』（ジョージ・R・R・マーティン、東京創元社）、『女の国の門』（シェリ・S・テッパー、早川書房）、『フィアサム・エンジン』（イアン・バンクス、早川書房）、『もしも月がなかったら ありえなかもしれない地球への10の旅』（ニール・F・カミングズ、東京書籍）。

宮坂宏美（みやさか ひろみ）

訳書に「ジュディ・モードとなかまたち」シリーズ（メーガン・マクドナルド、小峰書店）、「ゆうれい作家はおおいそがし」シリーズ（ケイト・クライス、ほるぷ出版）、『ノエル先生としあわせのクーポン』（シュジー・モルゲンステルン、共訳、講談社）など。やまねこ翻訳クラブや読書探偵作文コンクール事務局でも活動中。

村松真理子（むらまつ まりこ）

訳書に『イタリア広場』（アントニオ・タブッキ、白水社）、『悲しみの鴉』（アンナ・マリア・オルターゼ、白水社）など。著書に『謎と暗号で読み解くダンテ「神曲」』（KADOKAWA）など。（オンラインでの若者たちとの付き合いが続き、早くリアルに出会いたいと願う日々です）

吉澤康子（よしざわ やすこ）

主な訳書は、『コードネーム・ヴェリティ』『ローズ・アンダーファイア』（エリザベス・ウェイン、創元推理文庫）、アン・ペリーのヴィクトリア朝ミステリー・シリーズ（創元推理文庫）、加藤洋子さん、和爾桃子さんとの共訳『夜ふけに読みたい数奇なアイルランドのおとぎ話』（平凡社）など。好きなことは、お昼寝。体も動かさなくちゃと、ガーデニングやフラダンスもします。

横山和江（よこやま かずえ）

訳書のうち絵本は『サディがいるよ』（サラ・オレアリー、福音館書店）、『ジュリアンはマーメイド』（ジェシカ・ラブ、サウザンブックス社）、『山はしっている』（リビー・ウォルデン、鈴木出版）、『ほしのこども』（メム・フォックス、岩波書店）、『フランクリンの空とぶ本やさん』（ジェン・キャンベル、BL出版）、『300年まえから伝わる とびきりおいしいデザート』（エミリー・ジェンキンス、あすなろ書房）など。読みものは『キャラメル色のわたし』『わたしの心のなか』（シャロン・M・ドレイパー、鈴木出版）「ベネVENTの魔物たち」シリーズ（ジョン・ベームルマンス・マルシアーノ、偕成社）など。やまねこ翻訳クラブ会員。

矢沢聖子（やざわ せいこ）

訳書に『人生を変えてくれたペンギン』（トム・ミッチェル、ハーバーコリンズ・ジャパン）、『絶滅危惧種ビジネス：量産される高級観賞魚「アロワナ」の闇』（エミリー・ボイト、原書房）、『「先延ばし」する人ほどうまくいく：「大事なことほど後回し」の隠れた効用』（アンドリュー・サンテラ、原書房）などがある。